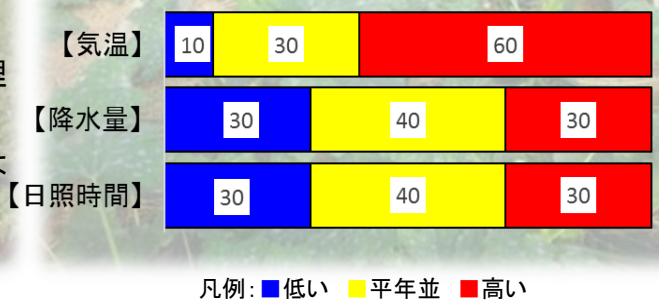
ＪＡ全農ちば
営農情報集
（４月号）

今月の情報

1. 水稲・田植え前後の管理について
2. 園芸野菜　病害虫防除情報
3. 果樹（ナシ）　病害虫防除情報

４月の気象について（気象庁 4/1 発表　長期予報（1 か月）から）

1．　４月は気温が平年より高めに推移する予報です。作物の前進化や施設の温度管理には注意しましょう。
（気象庁の確立予測資料を用いた算出では千葉市で平年値より＋1.1℃）



（長期予報（1 か月）は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう）

注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

営農技術情報のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばＨＰ内にて公開中
＜https://www.zennoh.or.jp/cb/producer/einou＞
※令和３年３月よりＨＰをリニューアルしております。掲載内容は同様です。

営農情報　　令和３年４月

水稲・田植え前後の管理について

ＪＡ全農ちば
営農支援部

今年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。気象庁発表の１ヶ月予報では日照時間・降水量とも平年並み、気温は平年より高めと予想されています。

育苗中、急な温度変化によって苗に「ヤケ」等が発生する心配があります。特に被覆を新しく張り替えたハウスは注意が必要です。

近年、気象の変化が極端化しております。高温だけでなく突発的な低温にも注意しましょう。

１．今後の育苗管理について

ハウス内温度は日中 30℃以上、夜間は 10℃以下にならないようにハウスの「換気」と「保温」に努めましょう。

被覆を張り替えたハウスは、特に曇天続き後に晴天となった場合の温度管理に注意してください。

ハウス内の温度が上昇してからの換気では遅いため、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

育苗期の気温が高く推移したときの注意点は以下の通りです

（１）苗の生育が早まり、本田の準備（代かき作業等）に追われて、育苗管理が疎かになってしまう。

（２）老化苗・徒長苗になりやすい。

（３）老化苗・徒長苗を移植すると、活着不良や除草剤の薬害が出やすくなる。

２．田植時の初期害虫の防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮した箱施薬剤選択が重要です。いもち病常発田や空散未実施地域には、殺虫殺菌混合剤を使用してください。

薬剤の効果を高めるために、

①１箱当たりの散布量（５０ｇ）を必ず守る。

②散布前に苗についた露を払い落とす。

③散布ムラに注意し、均一に散布する。

④散布後は手で苗を払い薬剤を下に落とす。　の４点をしっかりと実施しましょう。

イネドロオイムシ成虫・幼虫

※昨年、イネドロオイムシ対策で箱施薬剤を使用したにも関わらず、食害されて葉が白くなってしまった圃場では、必ず薬剤を変更してください。

（1）イネドロオイムシの発生が・・・

多い水田　⇒　フェルテラ箱粒剤　アドマイヤーＣＲ箱粒剤など

少ない水田⇒　ワンリード箱粒剤 08　プリンス箱粒剤　パダン粒剤４など

（2）初期害虫＋いもち病の常発田

デジタルコラトップアクタラ箱粒剤など

（3）初期害虫＋いもち病、紋枯病の常発田

エバーゴルフォルテ箱粒剤など

農作業安全 トラクター巻込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

３．スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

年々、被害地域が広がっています。令和２年１２月以降、気温が高めであったため、本年も発生が懸念されます。

密度の高い水田では５月上旬の移植後に被害が出やすい傾向にあります。薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

（１）耕種的防除

・田植前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に５㎜以下の金網やネット等を設置し侵入を防ぐ。
・ピンク色の卵は水中に払い落とす。
・水田の畦畔及び用排水路の雑草を刈り取る。
・深水部分では被害が多くなりやすいので、丁寧に代かきをおこない均平を図る。
・稲４葉期までは４ｃｍ程度の浅水で管理して、水田内での動きを抑制する。

（２）防除薬剤

薬　剤　名	使用時期	使　用　量	効　果
キタジンＰ粒剤	本田初期	３～５kg	殺　貝（稚貝～中貝）
パダン粒剤４	播種前又は田植当日	６０～１００ｇ／箱	食害防止
	本田初期（収穫３０日前まで）	４kg	
スクミノン	収穫６０日前まで	１～４kg	殺　貝（中貝～成貝）
スクミンベイト３	発生時	２～４kg	殺　貝

注：キタジンＰ粒剤は、田植直後～５日以内を目安にに散布して下さい。
貝が大きくなると防除効果が低下します。
殺貝剤と食害防止剤の併用はお互いの効果を相殺してしまうので、使用する場合は１週間以上間隔を開けてください。

ジャンボタニシ成貝

ジャンボタニシ卵塊

４．雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。
特に初期剤は田植え前の使用時期**【代かき後～移植７日前まで】**を遵守してください。

（１）水稲除草剤使用上の注意点

ア．水田にどのような雑草が生えるか確認し、除草剤を選択する。
イ．田面がデコボコしていると効果にムラが出るので、代かきを丁寧に行い、田面の均平化を図る。
ウ．散布後３～４日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

エ．散布後７日間は落水やかけ流しをしない。

オ．各薬剤の散布量を守り、薬剤の使用方法をよく読み正しく使う。

カ．軟弱徒長苗や極端な浅植えは薬害の発生を助長するので避ける。

（２）薬剤の処理方法

ア．比較的雑草の発生が少ない水田　⇒　**一発処理による雑草防除**

初中期一発剤を使って一回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を４日以内とし、田植え後１０日以内に散布する。

薬剤の使用時期を確認し、適用できるノビエの葉齢までに散布する。

イ．多年生雑草や雑草の発生量が多い水田　⇒　**体系処理による雑草防除**

初期剤と初中期一発剤（または中期剤）による２段階で防除する方法。雑草の発生量が多い、または「代かき～田植えまで」の日数が空いてしまう場合などに行う。多年生雑草などは栽培期間中長期にわたって発生が続くので、防除効果の高い体系処理が必要です。

初期剤

ダッシュワンフロアブル、ピラクロンフロアブル、メテオフロアブル、サキドリＥＷ、など

※田植え前の使用時期に注意

初中期一発剤

アシュラ、バッチリＬＸ、エンペラー、プライオリティ、エーワン、カイリキＺなど

５．適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」は茎数が不足すると減収につながるので栽植密度は 18 株/㎡（60 株/坪）とし、移植時期が遅い場合も極端な疎植は避けてください。

「コシヒカリ」の場合は 16～18 株/㎡（53～60 株/坪）とし、植え付けが５月中旬～下旬の場合は施肥窒素量を減量し、栽植密度を 15.0～16.5 株/㎡（50～55 株/坪）にしてください。

６．田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風時合は、深水で管理し保温に努めましょう。天候を無視した深水管理は分げつを抑制しますので避けましょう。

また除草剤（一発剤）散布後３～４日間は水を動かさない。散布後 7 日日までは落水かけ流しをしないことが除草剤を上手に効かせるポイントです。

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

７．千葉県育成水稲新品種「粒すけ」の施肥方法について

初期生育の促進を図り、早期に分げつを確保するために、「コシヒカリ」より基肥窒素を多く施用します。

土性別の施肥基準を参考に、施肥設計を行いましょう。

5 月中、下旬移植では、4 月下旬～5 月上旬移植より 10 a 当たりの窒素を 1 ㎏程度減らして栽培します。

（１）「粒すけ」・「コシヒカリ」の土性・移植時期別の基肥施肥基準（㎏/10a）

	土性	チッソ		リン	カリ
		４月下～５月上旬植え	５月中旬植え		
粒すけ	砂質土	6～8	5～7	7～9	8
	壌質土	3～5	2～4		
	粘質土（房総南部）	2～3	1～2		

	土性	チッソ		リン	カリ
		４月下～５月上旬植え	５月中旬植え		
コシヒカリ	砂質土	3～4	1.5～2	7～9	8
	壌質土	2～3	1.5		
	粘質土（房総南部）	2	1		

（２）粒すけの施肥を一発型肥料で検討されている方へ

生育・出穂時期を考慮し、コシヒカリ用の一発肥料を基本としますが、砂質土等の窒素肥沃度の低い圃場では、基肥窒素が不足します（注）。

圃場の肥沃度に合わせ、不足分の基肥窒素量を塩安や、一般的な化成肥料で補い、初期生育を確保しましょう。

※注：コシヒカリ専用一発は基肥分と穂肥分の窒素が 50％ずつ入っている銘柄が多く、粒すけの穂肥窒素基準３㎏に合わせると、基肥窒素も３㎏しか施用されません。

（３）栽植密度のポイント

「粒すけ」は疎植栽培を行うと、穂が大きくなり、一穂籾数が増加しますが、大粒で良好な玄米品質という特徴を引き出しにくくなります。疎植を避け、坪あたり 55～60 株を目安に移植しましょう。

作成：古内

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報　　令和３年４月

園芸野菜　病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば
営農支援部

１．はじめに

４月は気温が平年より高めの予報が出ておりますので、一部作物では害虫の発生がやや早い可能性があります。防除が遅れないよう、圃場を確認しましょう。また気温の変化が大きい時期なので、施設内の温度管理にも気を付けましょう。

２．キャベツ・ダイコン　他アブラナ科（アブラムシ類）

主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生します。ダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシは表面に分泌物が付いており、白い粉を被ったように見えます。モモアカアブラムシは赤色または淡い黄緑色をしています。発生が増えると葉の萎縮等の被害が生じます。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると、品質の低下に繋がります。

〇キャベツ　アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララＤＦ	2000～3000	収穫前日	2 回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫 7 日前	2 回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3 回以内
	23	モベントフロアブル	2000～4000	収穫 7 日前	3 回以内

〇ダイコン　アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララＤＦ	2000	収穫前日	2 回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫 14 日前	2 回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3 回以内

3. キャベツ・ダイコン　他アブラナ科(コナガ)

コナガの幼虫は葉裏～中心部に隠れていますので、圃場確認の際は葉をめくって裏側も確かめましょう。

薬剤は同系統の薬剤の連用・多用を避けて使用しましょう。他のチョウ目害虫やアブラムシ類も併発しますので、下記薬剤表の特性などを参考にして下さい。

コナガ成虫（体長 10mm）

コナガ幼虫　葉の表面を薄皮一枚残して食害する

農作業安全 トラクター巻込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

〇キャベツ　チョウ目害虫防除薬剤（コナガ対策）

対象病虫	IRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コナガ アオムシ	6	アファーム乳剤	1000～2000	収穫前日	3 回以内
	5	ディアナSC	2500～5000	収穫前日	2 回以内
	21A	ハチハチ乳剤★	1000～2000	収穫 14 日前	2 回以内
	UN（不明）	プレオフロアブル	1000	収穫 7 日前	2 回以内
	23	モベントフロアブル★	2000	収穫 7 日前	3 回以内
	UN（不明）	ファインセーブフロアブル★	1000	収穫 3 日前	2 回以内
	30	グレーシア乳剤	2000～3000	収穫7日前	2 回以内
		ブロフレア SC	2000～4000	収穫前日	3 回以内
	14	パダン SG 水溶剤★	1500	収穫 14 日前	4 回以内
	BT剤★	ゼンターリ顆粒水和剤	1000～2000	収穫前日	―
		エスマルクDF	1000～2000	収穫前日	―

同系統です

※　キャベツ以外のアブラナ科作物は登録内容を確認し使用しましょう。

★の薬剤は使用上のポイントがあります

①ハチハチは大型チョウ目が苦手なので、タバコガ・ウワバなどの発生には注意が必要です。

②モベントはアブラムシ防除、ファインセーブフロアブルはネギアザミウマ防除を兼ねますが、大型チョウ目対策はできません。

③パダンはアブラムシ、ナメクジ防除も兼ねます。

④同系統（同 RAC 番号）薬剤の連用多用は避けましょう。

４．トマト（コナジラミ類）

（１）コナジラミ類

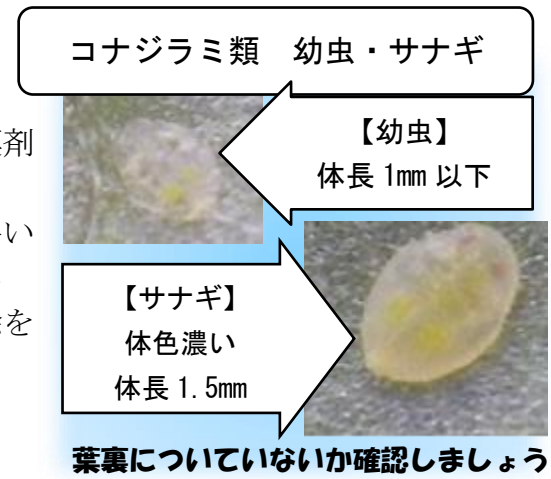
県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（ＴＹＬＣＶ）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、近年ではオンシツコナジラミの方が多く見られることもあります。また昨年は、一部の地域でトマト黄化葉巻病が多発生していましたので発生には注意しましょう。

薬剤使用時のポイント

ア　コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう散布しましょう。

イ　白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。

ウ　同系統薬剤の連用は避けましょう。



※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

（２）アザミウマ類

トマトでは葉の食害や果実に白ぶくれ症状に加え、トマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）、トマト茎えそ病（キク茎えそウイルス・ＣＳＮＶ）を媒介する恐れがあります。県内ではミカンキイロ、ヒラズハナアザミウマが主に発生します。ミカンキイロは葉裏、ヒラズハナは花（果実）へ寄生することが多いです。有効な薬剤が少ないため、同じ系統の薬剤の連用・多用は避け、ローテーション防除を行ってください。

●トマト　コナジラミ類ヨ・アザミウマ類ア　**マルハナ影響日数に注意※下記に記載**

ヨ	ア	薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
○		マクロライド系	6	アファーム乳剤	2000	収穫前日	5 回以内
○	○			アグリメック	500～1000		3 回以内
○	○	ネオニコチノイド系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3 回以内
○	○	スピノサド系	5	ディアナSC	2500		2 回以内
○		ジアミド系	28	ベネビアOD※1	2000		3 回以内
○		その他①	9B	コルト顆粒水和	4000		3 回以内
○		その他③	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2 回以内
※2	○	その他④	UN	ファインセーブフロアブル	1000～2000		3 回以内

※1 薬害が出るためアミスターなどの QoI 剤との混用、隣接散布不可　※2　タバココナジラミのみ

〈マルハナ影響日数〉

アファーム乳剤：２日　　アグリメック：７～１４日

ベストガード水溶剤：１０日以上　　ディアナ SC：１～３日

ベネビア OD：１日　　コルト顆粒水和剤：３～７日

トランスフォームフロアブル：２～５日　ファインセーブフロアブル：１日　作成：名雪・佐藤

５．ニンジン（トンネル栽培）〔ヒョウタンゾウムシ〕

ヒョウタンゾウムシの多くは圃場外から侵入し、畝内へ入ってきます。マルチの隙間や土の塊の下に潜っていることが多いです。トンネル除去前後の発生状況を確認しつつ、成虫防除としてコテツフロアブルの散布を行いましょう。散布はニンジン株元や畝全体によくかかるよう行いましょう。

○ニンジン　ヒョウタンゾウムシ　防除薬剤

対象病害虫	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ヒョウタンゾウムシ	13	コテツフロアブル	2000	収穫前日	2 回以内	成虫防除剤
	22B	アクセルフロアブル	1000	収穫前日	3 回以内	成虫防除剤

作成：名雪・齋藤

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和３年４月

果樹(ナシ）病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば
営農支援部

１．はじめに

本年は平年よりも開花が早い傾向にあり、すでに豊水は開花しております。防除時期が前進化しますので、気象情報に注意し、散布タイミングを逃さないようにしましょう。

２．開花期以降の黒星病防除

【表に登場する農薬は本文中で登録内容を省略しています】

（１）芽基部病斑を確認した場合は摘除しましょう（右図)。

（２）開花の前進に合わせて、防除暦５月上旬までの防除は前倒しになります（特に黒星病対策に合わせるため)。その場合は５月上中旬でユニックス顆粒水和剤 47（2,000 倍・３回以内）とベルクートフロアブルを追加散布し、防除時期を調整しましょう。

（３）４月下旬～５月にかけて臨機防除が必要な場合の対応薬剤

ア．アブラムシ類：ウララＤＦ、またはトランスフォームフロアブル(1,000 倍・３回以内)

イ．ハマキムシ・ケムシ等：サムコルフロアブル 10（2,500～5,000 倍・３回以内）

（４）防除暦抜粋：↓現在、各月の目安が１旬ほど前倒しなので注意

りん片脱落終了後～開花直前	4月上旬	黒星病・赤星病	マネージDF 6,000倍	21日前／3回
			トレノックスフロアブル 500倍	30日前／5回
		アブラムシ類	ウララDF 2,000倍	14日前／2回
開花期	4月中旬	黒星病	交配期間中に臨機防除が必要：トレノックスフロアブル500倍（30日前／5回）。受粉当日の散布は控える。	
受粉終了後	4月中旬～下旬	黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤 4,000倍	14日前／3回
			トレノックスフロアブル 500倍	30日前／5回
		アブラムシ類	バリアード顆粒水和剤 4,000倍	前日／3回
	4月下旬～5月上旬	ニセナシサビダニ・疫病	新梢展葉を確認後にモベントフロアブル 2,000倍	14日前／3回
摘果期	5月上旬	黒星病・赤星病・心腐れ症（胴枯病菌による）	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍	前日／3回
			トレノックスフロアブル 500倍	30日前／5回
		アブラムシ類・シンクイムシ類等	サイアノックス水和剤 1,000倍	無袋は45日前／3回 有袋は7日前／3回
	5月中旬	黒星病	ベルクートフロアブル 1,500倍	14日前／5回
			さらに、ユニックス顆粒水和剤47 と ベルクートフロアブルによる追加防除	

３．ニセナシサビダニ・チャノキイロアザミウマ防除

（１）対応する薬剤を選択し、４月中下旬以降に散布

ア．ニセナシサビダニ：モベントフロアブルを新梢展葉後に散布しましょう。

イ．チャノキイロアザミウマ：ハチハチフロアブル（2,000 倍・１回）
ミツバチへ影響があるため、開花後、周囲に注意し散布しましょう。

（２）ニセナシサビダニは４月時点で葉にモザイク模様を生じているので発生の判断が可能。チャノキイロアザミウマの被害が目立つのは５月以降なので（防除開始は４月から)、前年の被害状況を確認し防除しましょう

作成：名雪

農作業安全 トラクター巻込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用･複写･転載を禁じます JA全農ちば